

## シングルレバー混合栓施工及び取扱説明書

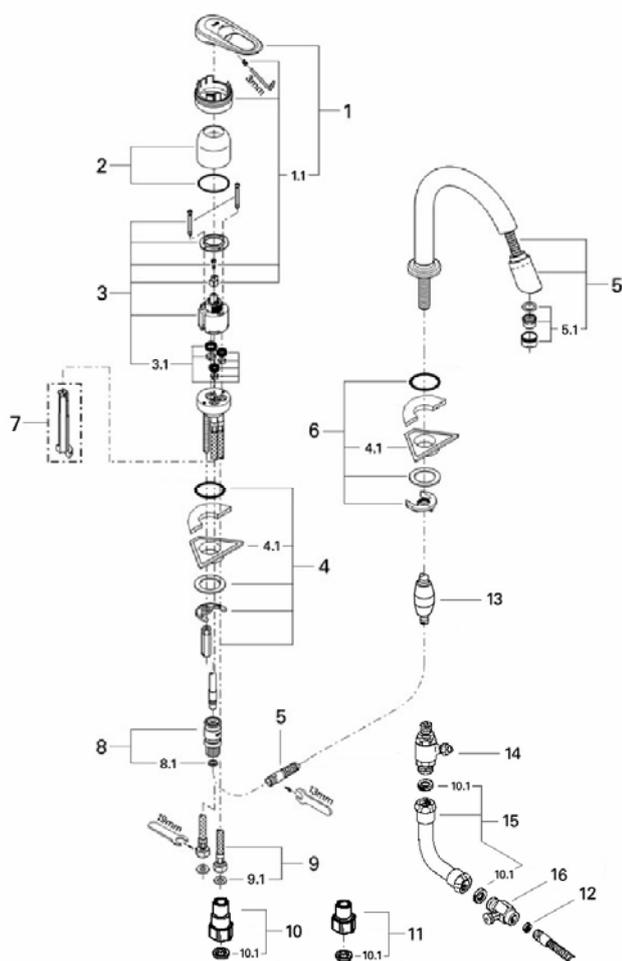
3 3 8 1 9

3 3 8 1 9 K

- 製品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容にそって正しく取付けてください。
- この施工説明書に記載されていない方法で施工され、それが原因で故障が生じた場合は、商品の保証を致しかねますのでご注意ください。
- 施工完了後、試験運転を行い、異常が無いことを確認するとともに、「取扱説明書」にそってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。  
また、この説明書は、お客様で保管頂くように依頼してください。

### 完 成 図

※品番によっては、図と現品の形状が一部異なることがあります。



図番	名称
1	レバーセット
1.1	スクリューセット
2	化粧カバー
3	セラミックカートリッジ
3.1	シールセット
4	締付セット
4.1	固定板
5	ノズルホースセット
5.1	エアレーター(マザー)
6	締付セット
7	耐圧フレキ工具
8	カップリング
8.1	リング
9	耐圧フレキ
9.1	フレキパッキン
10	逆止弁アダプター
10.1	パッキン
11	接続アダプター
12	ホースパッキン
13	おもり
14	ホース逆止弁
15	水抜栓ホース
16	水抜栓

※カウンター穴あけ寸法はφ36±1、φ25±5で行ってください。カウンター厚 40mm 以下。

## 安全上の注意

施工前にこの「安全上の注意」をよくお読みの上、正しく施工してください。

ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

### ⚠注意

湯水を逆に配管しないでください。

※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをすることがあります。

お客様に引き渡す前に凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。

寒冷地仕様ではありませんので、水抜きには工具を必要とします。

※凍結破損で漏水し、家財を濡らす財産損害発生のおそれがあります。

施工完了後は、配管接続部分及び水栓から、水漏れの無いことを確認してください

※漏水で、家財を濡らす財産損害発生のおそれがあります。

## 使用条件

### ● 給水、給湯圧力

◇貯湯式温水器（ボイラー、電気温水器）と組み合わせる場合

流動圧で最低必要圧力(0.05Mpa [0.5kgf/C m<sup>2</sup>])～(最高圧力0.74Mpa [7.5kgf/C m<sup>2</sup>])の範囲とします。

※給水・給湯圧力はできるだけ同圧になるようにしてください。

◇ガス給湯器（比例制御式：16号相当）と組み合わせる場合

流動圧で最低必要圧力(A+0.05Mpa [0.5kgf/C m<sup>2</sup>])～(最高圧力0.74Mpa [7.5kgf/C m<sup>2</sup>])の範囲とします。

※Aはガス給湯器の最低作動圧力です。

※以上は下記の条件を想定して設定されて降ります。

レバーハンドルは全開です。

ガス給湯器との組合せ条件が最も悪い冬期条件（給水温度5℃、吐出温度40℃）によるものです。

給水圧力はガス給湯器直前における流動圧です。

ガス給湯器の温度調節は最高温度設定です。

◇給水圧力が0.74Mpa [7.5kgf/C m<sup>2</sup>]を超える場合は、市販の減圧弁等で適正圧力に減圧してください。

● 水勢の調節及び器具の点検を容易にするために、必ず別途止水栓をご用意ください。

● 給湯に蒸気を使用しないでください。

● 水栓下部を点検出来るように必ず点検窓を設けてください。

## 施工前の注意

● 給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確かめてください。

● 給水は上水道に接続してください。

※温泉水など異物を多く含む水には使用できません。

● 開梱、取り付けの際には商品の表面に傷をつけないように十分に注意してください。

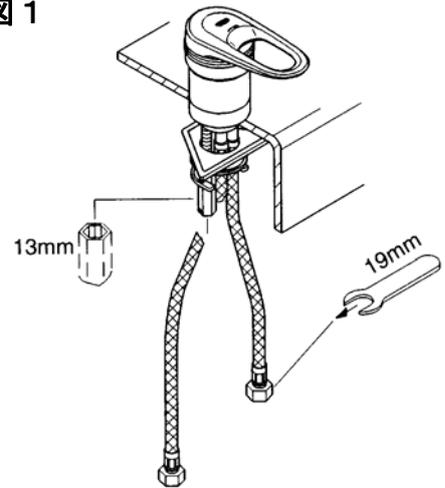
● 必ず配管中の異物（ゴミ、砂等）を完全に洗い流してください。

## 施工手順

### 1. 本体の取り付け（図1参照）

- ①本体付属部品を収納している小袋から、水漏れ防止用パッキンを取り出し、本体に取り付けてください。
- ②本体をカウンター上部から取り付け穴に挿入します。  
給水・給湯管が正面に向くように図1の通りセットしカウンターうらから三角固定板、ゴム製平パッキン、馬蹄形ワッシャーを挿入し締付ナットで締め付けてください  
※三角固定板、ゴム製平パッキンと馬蹄形ワッシャーがきちんと重なっていること、又、本体水漏れ防止用パッキンが、取り付け穴に落ち込んでいないことを確認してください。  
水栓を固定する際、取り付け穴が水栓本体の中心にくるように取り付けてください。  
※レバー付近を持って上下左右に振り、水栓本体が確実に固定されていることを確認してください。動く場合は、再度締付ナットを締め直して下さい。  
※固定には13mm垂直スパナ(市販品)を使用して確実に締め付けてください。

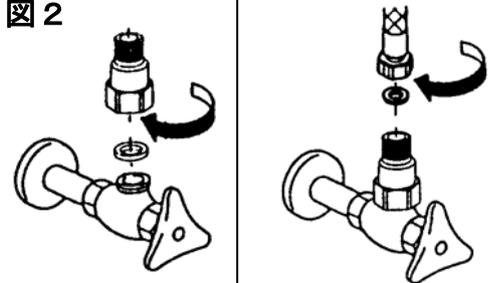
図1



### 2. 給水・給湯管の接続（図2参照）

- ①同梱の逆止弁（寒冷地用はアダプター）を止水栓に図2通りネジ込み確実に固定してください。
- ②給水・給湯管を逆止弁（寒冷地用はアダプター）に図2の通りネジ込み確実に接続してください。  
※給水・給湯管がねじれて接続されると、袋ナットの緩みの原因になります。  
※最小曲げ半径(60mm)より小さいと給水・給湯管が折れることがあります、折れた部分から早期破壊を生じる可能性があります。  
※給水・給湯管は回転しますがシールには影響ありません。  
※給水・給湯管の不要な接触は外部補強層の摩擦による外傷で劣化の可能性があります。

図2

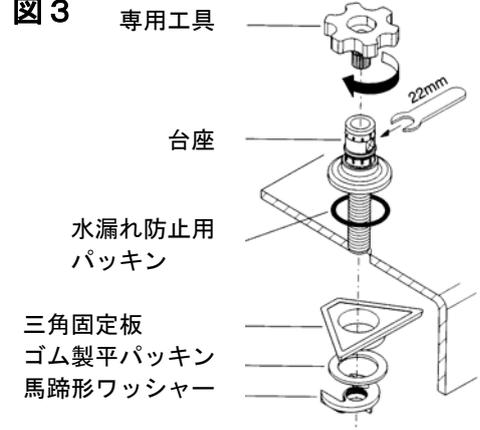


### 3. 台座の取り付け（図3参照）

- ①台座付属部品を収納している小袋から、水漏れ防止用パッキンを取り出し、本体に取り付けてください。
- ②台座をカウンター上部から取り付け穴に挿入します。  
図3の通りセットしカウンターうらから三角固定板、ゴム製平パッキンを挿入し、馬蹄形ワッシャーを軽くネジ込み台座上部のギザギザ穴に専用工具を挿し込み締め付けてください  
※三角固定板、ゴム製平パッキンと馬蹄形ワッシャーがきちんと重なっていること、又、台座水漏れ防止用パッキンが、取り付け穴に落ち込んでいないことを確認してください。  
台座を固定する際、取り付け穴が台座本体の中心にくるように取り付けてください。  
※固定には22mmスパナ(市販品)を使用できます。

図3

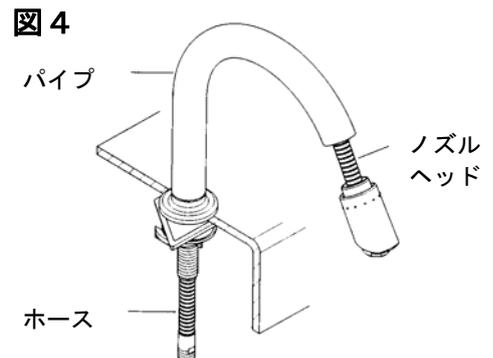
専用工具



### 4. ノズルヘッドとパイプの取り付け（図4参照）

- ①パイプにノズルヘッドを差し込み、ノズルヘッドのホースを台座の穴に挿入します。
- ②台座のシャンク部分にパイプを差し込みます。  
※シャンクにはグリスが塗られてありますが、差し込むときにはオーリングとスリップリングに傷が付かないよう気をつけて下さい。

図4



## 5. シャワーホースの接続 (図5参照)

### 一般用

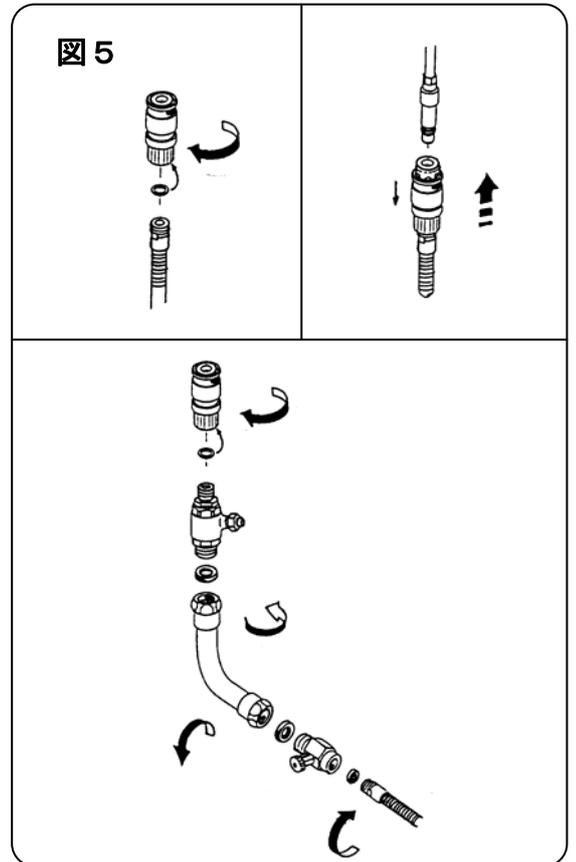
- ①カップリングにホースをネジ込んでください。  
このとき、パッキンは必要ありません。  
※オーリングを確認し、必要以上の締付トルクは加重しないでください。
- ②カップリングを本体側継手に差し込んでください。

### 寒冷地用

- ①カップリングにホース逆止弁をネジ込んでください。  
このとき、パッキンは必要ありません。  
※オーリングを確認し、必要以上の締付トルクは加重しないでください。
- ②水抜栓に付属のパッキンを使用して、水抜栓ホースの袋ナットをモンキー等で締め付けます。
- ③ホース逆止弁に付属のパッキンを使用して、水抜栓ホースのもう一方の袋ナットをモンキー等で締め付けます。
- ④カップリングを本体側継手に差し込んでください。

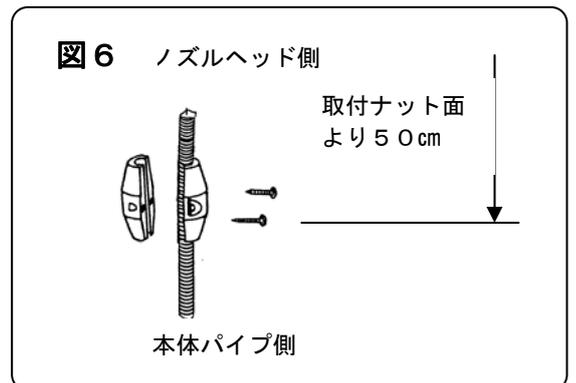
### 取付け時の注意

- ※水抜栓ホースを締め付ける際は、ホースがねじれないよう注意してください。
- ※カップリングとホースの取付けの際は、カップリングを締めすぎないように注意してください。カップリングが割れて家財を濡らす財産損害発生のおそれがあります。



## 6. おもりの取り付け (図6参照)

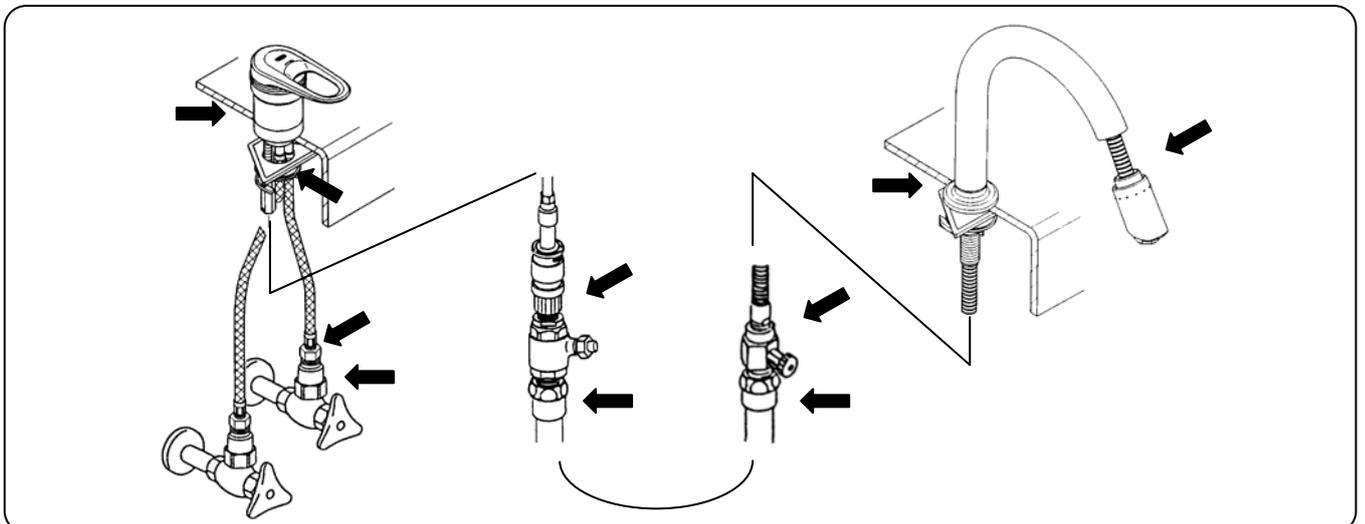
- ①おもりは、ハンドスプレーの納まりをよくするためと、引き出したときのストッパーの役目をします。  
ホースが60cm引き出せ、おもりがストッパーとなる位置 (図6参照) でホースにはさみ、ビスでネジ込み固定します。  
※ノズルをいっぱい引き出した状態でホースに、ゆとりがないときは、おもりの位置をずらしてください。  
※取付け後、2~3回ホースを出し入れし、ねじれたり引っ掛かりがないことを確認してください。



## 取り付け後の確認

取付け完了後、必ず下記の項目を確認してください。

1. 接続部の水漏れ (図7参照) 吐水、止水を数回くりかえした後、図7の箇所を点検します。



## 2. 水量・湯温の調節（図8参照）

お使いいただく現場で、適量・適温が得られるよう、止水栓で調節します。

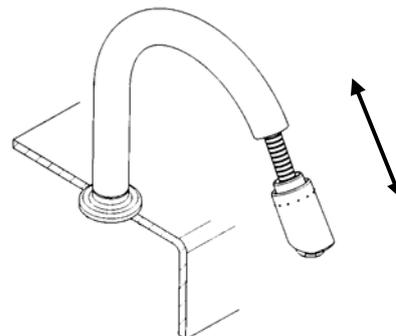
※湯水の流量を同程度にすると温度調節がしやすくなります

図8



## 3. ノズルヘッドの操作確認（図9参照）

ノズルヘッドを出し入れし、ホースがねじれたり、止水栓に引っかからないことを確認してください。



## 故障と点検

取付後、万一故障した際は、次の要領で分解および点検を行ってください。

5 カートリッジ止ビス  
十分に締め付けてあるか

7 レバー止ビス  
十分に締め付けてあるか

3 カートリッジ  
破損・ゴミかみはないか

2 泡沫器  
ゴミづまりはないか

4 パッキン  
キズ・ゴミかみはないか

9 ホース・おもり  
引っ掛かりはないか  
取付位置は良いか

6 水漏れ防止パッキン  
きちんと取り付けてあるか

8 逆止弁  
破損・ゴミかみはないか

8 逆止弁  
破損・ゴミかみはないか

1 止水栓  
全開されているか？

現象	点検箇所
吐水量が少ない	1. 2. 8
水が止まらない	1. 3. 4
温度不良	1. 2. 3
レバーがガタつく	5. 7
カウンター内に漏水する	6
ホースが引き出せない	9

## § 保証書 §

本書は、本書記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。下記の保証期間内に故障が生じた場合は、本書をご提示の上、お買い求め取扱店に修理をご依頼ください。

※取り付け日・取扱店の欄に記載の無い場合は、無効になります。

### 無料修理規定 (保証規定)

1. 「取扱説明書」・「ラベル」などの注意書きに従った正常な使用・維持管理状態で保証期間内に故障した場合、無償修理致します。
2. 無償修理をお受けになる場合、お買い求めの取扱店にご依頼のうえ、本書をご提示ください。
3. ご移居・ご贈答品などで、本書を記載の取扱店に修理をご依頼できない場合、当社サービス課にご相談ください。
4. 保証期間内でも以下の場合、有償修理とさせていただきます。
  - (1) 使用・維持保管上の誤りおよび不当な修理・改造による故障および損傷
  - (2) 温泉水・中水・飲用不可な井戸水利用による故障および損傷
  - (3) お買い求め後の取付場所の移動およびそれに伴う落下などによる故障および損傷
  - (4) 火災・地震・水害・落雷・その他の天変地異、公害や異常電圧など、その他の事故および損傷の原因が商品以外にある場合
  - (5) 消耗部品の劣化に伴う故障の損傷
  - (6) 本書の提示がない場合
  - (7) 本書に取付日・取扱店名の記入のない場合、あるいは字句の書き替えられた場合
5. 本書は日本国内においてのみ有効です。
6. 本書は再発行いたしませんので、紛失しないように大切に保管してください。

保証期間 : 取付日より 2 年	取扱店 (店名・住所・TEL)
取付日 : 年 月 日	

## グローエジャパン株式会社

本社 〒143-0006 東京都大田区平和島6丁目1番1号 東京流通センタービル3階  
TEL 03-3298-9685 FAX 03-3767-3811  
大阪営業所 〒550-0014 大阪府大阪市西区北堀江1丁目5番2号 四ツ橋新興ビル2階  
TEL 06-6533-3015 FAX 06-6533-3460

## 安全上の注意

ご使用前にこの「安全上の注意」をよくお読みの上、正しくご使用ください。

この説明書では、機器を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

表 示	意 味
 <b>注意</b>	この指示を無視して、誤った取扱をすると、障害または、物的損害が発生する可能性があることを示しています。

お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる場所に必ず保存してください。

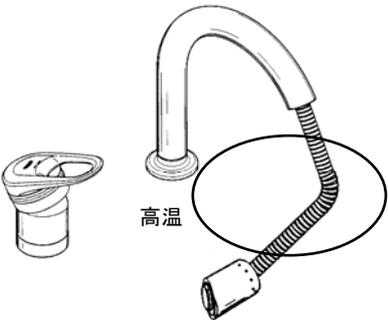
また下に示す記号は説明書や製品に表示してお客様に安全に正しく製品をお使いいただくようにしたものです。内容をよく理解して正しくお使いください。

	…………… 「してはいけません！」（一般的な禁止記号です）
	…………… 「指示通りにしなさい！」（一般的な行動指示記号です）
	…………… 「指示した場所に触れてはいけません！」
	…………… 「分解してはいけません！」

## ⚠注意



**高温の湯を出しているときにホースに触れない**



高温をお使いのときにホースは高温になっています。直接肌を触れないようにしてください。  
※やけどするおそれがあります



**高温の湯使用後はしばらく水を流す**



高温の湯をお使いの後は、器具内に高温のお湯が残らないように、水を流してください。  
※次に使用するとき水栓内に滞留した高温の湯が出てやけどするおそれがあります



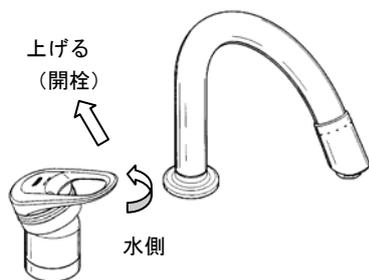
**閉栓は水側にしてから**



お湯を止めるときは、必ずレバーハンドルを水側にしてから閉めて下さい。  
※次に使用するとき水栓内に滞留した高温の湯が出てやけどするおそれがあります



### 開栓は水側から



お湯をお使いになるときは、必ずレバーハンドルを水側から開栓してください。その後ゆっくり湯側へ回し、お好みの温度に調節してください。  
※湯側から開栓すると高温の湯が出てやけどするおそれがあります



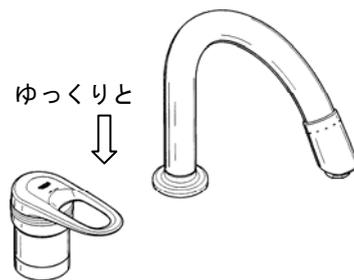
### 修理技術者以外の方は絶対に分解したりしない



修理技術者以外の方は絶対に分解したり、修理・改造は行わないでください。  
※けがをしたり、故障・破損のおそれがあります。



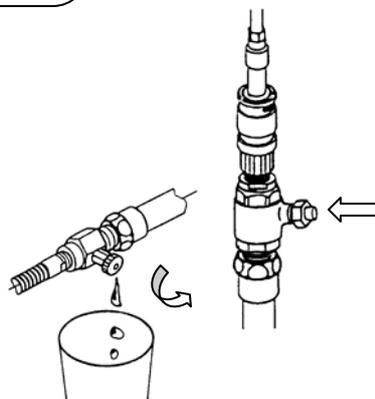
### 止める時はゆっくりと



レバーハンドル操作の急閉止は、配管から漏水を起すことがありますので、ゆっくり操作してください。  
※漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります



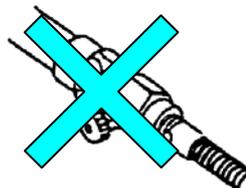
### 寒冷地の水抜き (寒冷地仕様)



凍結が予想される際は、配管の水抜き操作と水栓金具の水抜き操作を行ってください。  
※凍結破損の漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります



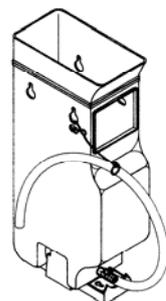
### 器具の使用中は水抜栓を開けない (寒冷地仕様)



水抜栓は水抜き以外の目的で開けないでください。  
※水抜栓をいきなり開けますと高温の湯が出てやけどしたり、湯水が吹き出して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります



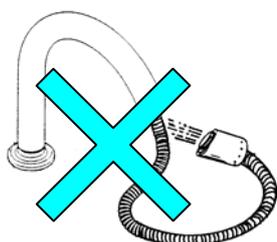
### 水受容器の設置



配管接続及び水栓器具は必ずキャビネット内で行い、バック化粧板内側に隠さないでください。また別売の水受容器を必ず設置してください。  
※ホース破損等による漏水等の発見が遅れで家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります



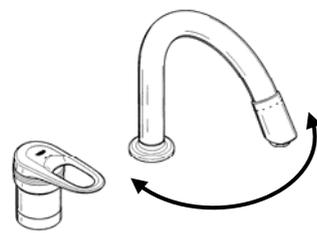
### 水をかけの禁止



ホース部分に直接水をかけないでください。  
※キャビネット内へ水が侵入し家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります



### 首振りにはゆっくりと



首振り操作を乱暴に扱おうと衝突を起すことがありますので、ゆっくり操作してください。  
※衝突で家財などを破損し財産損害発生のおそれがあります

## ご使用方法

### 1. 開閉レバーハンドル

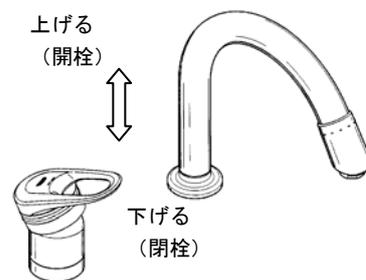
#### ●開閉及び水量調整

本体上部の開閉レバーハンドルを上下することにより、バルブの開閉及び水量調整を行うことができます。

上にあげて → 吐出が始まります

下にさげて → 吐出が止まります

※約30°で全開です。



#### ●温度調整

開閉レバーハンドルを回すことにより、湯水の供給量の割合を変化させ吐水温度の調整を行うことができます。

左側に回して → 湯 (高温) になります

右側に回して → 水 (低温) になります

※高温をお使いになるときは、必ず右側へ開閉レバーハンドルを回してからゆっくり左側へ回して、お好みの温度に調整してください。



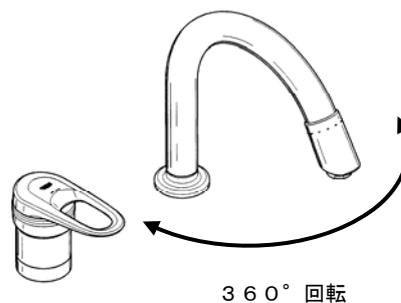
### 2. ノズルヘッド

#### ●パイプの回転

ノズルヘッドのパイプを回転することにより、首振りを行うことができます。

左右に → 360°回転します

※首振り操作を乱暴に扱うと衝突を起こすことがあります。

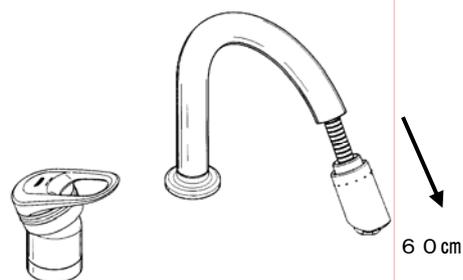


#### ●ホースの引き出し

ノズルヘッドを引っ張ることにより、ホースを引き出しを行うことができます。

任意に → 約60cm引きだせます

※引き出し操作を乱暴に扱うとホースの破損を起こすことがあります。

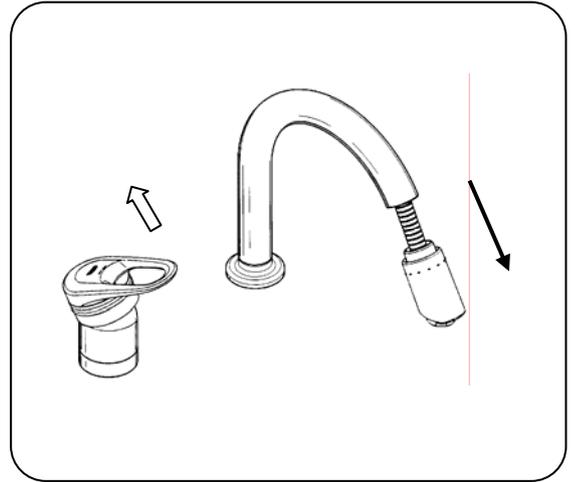


## 寒冷地にて使用する場合

### 1. 水栓の操作

- ①屋外の給水栓を閉じ、不凍栓を開放してください。
- ②水栓の開閉レバーハンドルを湯水の中央位置で開栓してください。
- ③水栓のノズルヘッドを引き出して下さい。

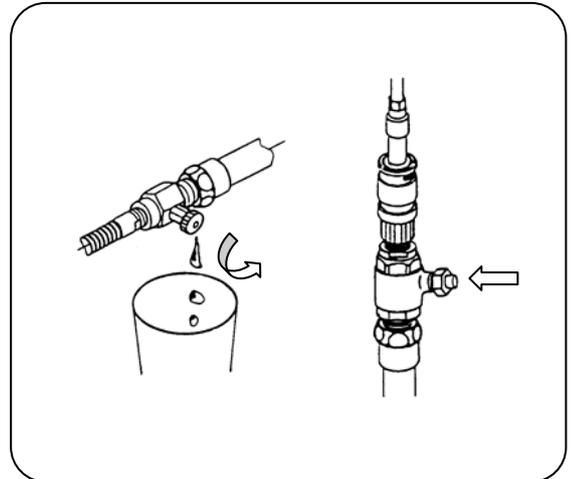
※水栓内の水は配管へ流し、ドレンバルブ等で開放してください。



### 2. 水抜栓の操作

- ①キャビネット内の水栓下部ホース逆止弁のピンを押して逆止弁コマを開放してください。
- ②キャビネット内の水栓下部ホース水抜栓のつまみを回してホース内の水を抜いてください。

※水抜きは水受容器内か水受け等を用意してから行ってください。



## お手入れの方法

表面が汚れたら、柔らかい布でふいてください。汚れがひどいときは、適当に薄めた中性洗剤をふくませた布で、ふきとってください。そのあと水でぬらした柔らかい布をよく絞って、洗剤をふきとり、最後に柔らかい布でからぶきしてください。

お手入れの際は、クレンザー・みがき粉や粗い粒子を含む洗剤・塩素系洗剤・シンナー・ベンジン及びナイロンタワシなどは、器具の表面を傷つけたり、侵したりしますので使用しないでください。

